



ポニーベースボールとは

日本ポニーベースボール協会の歴史

日本にポニーベースボールが紹介されたのは昭和49年中頃、当時カリフォルニア州ロスアンゼルス市でポニーのフィールドディレクターをしていた故ミルトン・デユベイン氏が知人を通じて前日本協会理事長の故伊藤慎介に紹介したのが始まりです。その後、伊藤を中心に発足準備が始まり、昭和50年5月5日の子供の日、日本ポニーベースボール協会として川崎球場で第一回目の日本選手権大会が開催されました。翌年にはブロンコリーグも発足しました。発足の年の8月、日本ポニー代表は日米親善大会の為渡米。ロスアンゼルス地区を中心に7試合を行い3勝4敗。それ以後、来日と渡米が1年ごとに繰り返され現在にいたっています。

世界選手権大会の予選であるアジア太平洋地域選手権大会は、まずブロンコリーグが昭和58年に初参加。翌年にはポニーリーグも参加しています。また、ロシアにて日本、ハワイ合同の親善大会を開催したり、中国、台湾等とも親善大会を行い 各国の青少年をベースボールを通じて立派な大人に育てようという目標にむかって進んでいます。

このような国際的な活動がベースボール発祥の地であるアメリカ合衆国の歴代大統領から評価され、レーガン大統領からホワイトハウスへ招待状を受けたのをかわきりに、ブッシュ、クリントン、前ブッシュと歴代大統領からもホワイトハウスへ招待状を受け親書を手渡しています。

ポニーベースボールの誕生と歴史

特色：年齢に適合したダイヤモンドサイズを採用

ベースボールの本場、アメリカに於いて歳月をかけて研究した結果、成長期の子供にとって最も理想的なのは2年制リーグであるという事でした。殆どの団体が3年制リーグを採用していますが、成長期の子供はご存じのように著しい成長を見せます。3年制リーグですと、最年少の子供と最年長の子供では体力的な格差が大きく、最年少の子供は練習に何とかついていくため無理をして、結果、肘、肩等を壊すことが多々あります。また、試合用のユニフォームを与えられても控えとしてずっとダッグアウトに座っているか、最悪の場合白いユニフォームの練習生扱いとなってしまう。ポニーベースボールでは、このような事態を避けるため、年齢に適合したダイヤモンドサイズを採用しています。基本的にはアメリカで開発されたプログラムなので4月入学の日本の学校制度には若干一致しませんので、国内大会のみ右記の表のように分けています。国内のポニーリーグでは、中学1年生から3年生までがプレー可能ですが、2年制度の理念を失わないよう、各リーグで選手構成を配慮しながらチーム作りを行っています。

リーグ名	国際	日本
シェットランド	5～6歳	小学生低学年としてマスタングの名称で運営
ピント	7～8歳	
マスタング	9～10歳	
ブロンコ	11～12歳	ポニーブロンコの名称で小学生高学年を運営
ポニー	13～14歳	中学1年生～中学3年生
コルト	15～16歳	中学2年生～中学3年生
パラミノ	17～18歳	学生/社会人(国内無)
サラブレッド	19～23歳	学生/社会人(国内無)

ポニーリーグの誕生「U14」

一番最初にできたのは13～14歳を対象としたポニーリーグでした。1940年代、アメリカの少年野球界ではリトルリーグを修了した子供達の為のプログラムが模索されていました。13歳の子供には正規サイズのダイヤモンドは大きすぎたのです。1950年、ペンシルバニア州ワシントン市の新聞「レポーター」紙の編集委員だったルー・ヘイズ氏は地元の出版社「オブザバー」の会議室にワシントン市リトルリーグ会長のウィリアム・ヘモス氏、後にポニー初代会長になるハワード・ウエア氏他十数名を集め、リトルリーグ修了生の為のリーグ会議を開き、新たなリーグ「ポニーベースボール」を設立しました。PONYとは地元のYMCAの少年達から提案されたもので、Protect 守る、Our 我々の、Neighbor's 近隣の、Youth 青少年、「我々の近隣の青少年を守ろう」という意義がありました。その後、NをNation's 国の、に変更し今日にいたっています。

1951年夏に6チームが参加し正式に活動を開始。当初はワシントン市以外の都市へ普及する考えはありませんでしたが、クチこみにより問い合わせが殺到し、急速に各都市へ普及し翌年には106リーグ、511チーム体制へと拡大し、登録選手数は8,176名に及びました。ワシントン商工会議所はワシントン高校の球場を使用し第一回ポニーリーグワールドシリーズを開催する事を決定。栄えある第一回優勝はテキサス州サンアントニオ・ポニーでした。1953年、ポニー本部球場がワシントン市に設立。ワールドシリーズも本部球場に舞台を移しました。現在もポニー本部球場にて開催されています。

コルトリーグの誕生「U15」

次に発足したのが15～16歳を対象としたコルトリーグです。このリーグはもともと、他団体として独自に運営されていました。1953年、オハイオ州マーチンスフェリー市でジョン・ラスロ氏が地元の体育協会の援助を得て設立。このリーグも急速に全国に普及しました。1957年にはカリフォルニア州エバンストン市に本部を移しました。同年、カリフォルニア州サンバルティノ市で15～16歳を対象とした新たなリーグ、ナショナルボーイズベースボールが発足しました。これ等2つの異なる団体はそれぞれにワールドシリーズを開催。同年齢を対象とする団体が2つできたことで、修了生を送り込んでいたポニー協会は困惑しました。そこで、ポニーリーグではポニー修了生リーグを結成し、ナショナルボーイズベースボールと話し合いの結果合併。その後、1959年、コルトリーグとポニー修了生リーグはピッツバーグで会合を開き、翌年には合併し念願の全国統一規模のコルトリーグがポニー協会の傘下で発足しました。

ブロンコリーグの誕生「U12」

11～12歳対象のブロンコリーグはもともとジュニアポニーリーグと呼ばれていました。11～12歳の子供達はリトルリーグでプレーしていたのですが、リトルリーグではリードと盗塁に規制がありました。日増しに11～12歳の為の「リアルベースボール」の要求が高まりはじめポニーでも自主運営していたジュニアリーグを1963年、ブロンコリーグと改称し、第三番目のリーグとして発足しました。

その後、1969年にはマスタングリーグ、1974年にはシェットランド、ピント、パラミノリーグがそれぞれ発足しています。

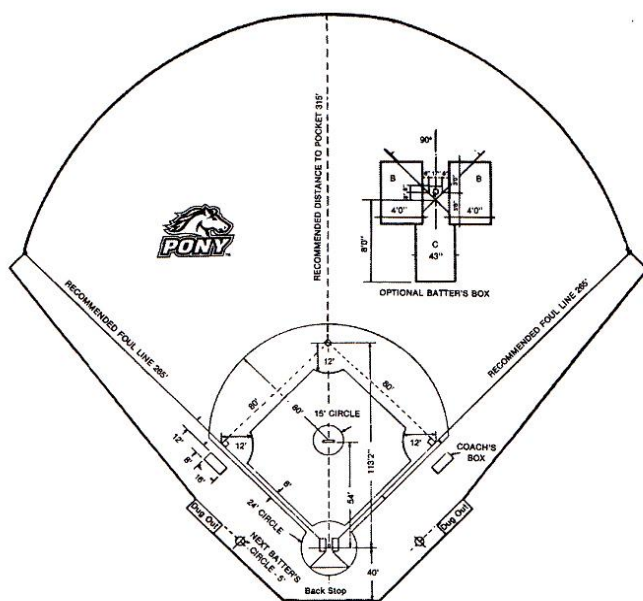
選手に適したダイヤモンド

ポニーベースボールの特色の1つとして、上記の年齢制度に加えて年齢にあったダイヤモンドの採用があります。子供がプレーしやすいようにルールを変更するよりも、ダイヤモンドのサイズを変更する事により、身体能力に合ったプレーが可能になると考えています。もし、全ての年齢の子供達が通常のダイヤモンドでプレーすると、どのような事が起こるでしょうか。殆どの子供達は内野、外野を問わず中へ中へと入ってきます。ファーストやサードの子は、ベースの前に立ちます。外野の子は極端に内野に近づいてきます。

このような事態は、ダイヤモンドを縮小する事により解決できます。縮小する事により、全ての距離が、大リーグが大リーガーにプレーさせようと意図した空間距離と同等の距離を子供達に与えることが可能になり、大リーガーと同等のプレーを可能にするのです。

各リーグのダイヤモンドサイズは下記のとおりです。

しかし、現在は、基礎体力の向上により、別記のダイヤモンドサイズにて運営しています。



ブロンコリーグのダイヤモンド

	国際	日本
ベース間距離	70フィート(21.34m)	75フィート(22.86m)
投球間距離	48フィート(14.63m)	51フィート(15.54m)
本塁・二塁間距離	99フィート(30.18m)	106フィート(32.3m)

ポニーリーグのダイヤモンド

	国際	日本
ベース間距離	80フィート(24.38m)	90フィート(27.43m)
投球間距離	54フィート(16.46m)	60.6フィート(18.44m)
本塁・二塁間距離	113.2フィート(34.50m)	127.3フィート(38.80m)

コルトリーグのダイヤモンド

	国際	日本
ベース間距離	90フィート(27.43m)	90フィート(27.43m)
投球間距離	60.6フィート(18.44m)	60.6フィート(18.44m)
本塁・二塁間距離	127.3フィート(38.80m)	127.3フィート(38.80m)